12月20日：軽い、故に速い。速い、故に軽い。

編集氏に泣き二回入れるくらい大苦戦だった〆切をようやく調伏したので

『エクセレント！ そこでキメポーズ！！』

はいポージング受付してないでーす。

エリュシオン・オートクチュールの戯言をスルーしつつ、俺は決闘級メイド服「千古不易」の着心地を確かめる。とはいってもこのゲームで着心地に違和感を覚える事は基本的に無い。クターニッドの効果で強制性転換させられた時は装備のサイズが合わなくなったりもしたが……少なくともプレイヤーが制御し得る範囲で防具のサイズがプレイヤーの意にそぐわないことは無いのだろう。

「さぁかかってこい」

「くっ……既に変身魔法少女としての格で負けた気がする……！」

「物理型だから魔法少女ではないんだけどな……」

百足式8-0.5は俺の手持ちの甦機装の中では一番クセなく使える……が、一番性能が尖った(・・・・・・)甦機装である。

超過機構(イクシードチャージ)を使うと使い手諸共ブッ壊れたり、真正面から魔法を受け止めるが故に耐久を著しく削ったりせず、効果もシンプルにMPの常時消費とそれに応じたパワーアップおよび敵へのデバフと非常にシンプルだが……実のところを言うと百足式8-0.5、性能の九割をそれ(・・)に使っているので、非超過機構使用時は冗談ではなくただの棍棒なのだ。

さらに言えば超過機構もまた、「俺(サンラク)」とは相性が良くない……というか悪い。この武器に真に適したプレイヤーとは「ハルバードスキルを習得している魔法職」だろう。封雷の撃鉄・災はHPが１になればそれ以降の体力半減を踏み倒せたがこっちはそうはいかないのだ。”外付け”で補強できるとはいえMPが尽きたら効果時間終了というのは物理型の俺と相性が悪い。

さらに言えばこのメイド服のせいでアクセサリースロットも事実上使用不可……脳が味覚に錯覚させた苦みを表情に出さないようにしつつ、敵の情報を改めて整理する。

ゴスロリチェーンソー………一発芸みたいな恰好しやがって、と毒づきたいが鎖鎌の前例があるのであれをコケ脅しと判断するのは危険だろう。PvPイベント最前線にわざわざ持ち込んできたくらいだ、使い捨て前提とも思えないし勝って生き延びるつもりで来たのは間違いない筈。

バハムートで金さえ積めば買える量産品のしょっぱい性能の奴は見た目が画一的だ。特務用などのランクが上の方のやつならば画一的ながらも高性能感ただよう見た目になっていくが……

「随分とキレッキレのチェーンソーだな、特注か？」

「勿論、キレッキレのバリッバリだぜ」

聞いたら答えてくれた、ちょろいぜ。

とはいえ特注品(ワンオフ)かあ………最悪ビームが飛んでくるのも想定しないとダメかもしれないな。

おっと、そろそろ始めないと”映え”が悪いな。

「サイナ！」

「了解：」

「うおおおおサイナちゃんにキルされた実績が欲し」

銃声。随分と人生のトロコンが難儀な奴がいた気がしたが一つ埋まったようで何よりだ、次は命綱無しでバンジーの実績を取って来てほしいものだ。

ギャリリリリリ！ とあかしゃの持つチェーンソーが駆動音(さけび)を上げる。かつて人類存亡をかけて戦った神代文明に由来するそれは、馬鹿正直に木材伐採用ということはあるまい。むしろ大木の如き敵の手足をぶった斬る用……と考えるべきだろう。

「小手調べだ！」

だが、そのあかしゃの第一手はそういった大雑把で豪快なものとは異なっていた。

奴はチェーンソーを地面に突き立てると、その回転運動によって掘り起こされ、砕かれた石、あるいは土をこちらに勢いよく弾(ハジ)き放ったのだ。

原理はつま先で地面を蹴って土に前に飛ばすのと同じ、だが出力が人体でやるそれとは比べ物にならない。何かしらのスキルなのか、こちらに散弾の如く飛来する土礫は明らかに敵の体力を削るだろう光を帯びている。

「チッ…！」

一歩、二歩では避けられない。紙装甲がやられて嫌なことを熟知した初撃だ、多重的円周運動《オービット・ムーブメント》で半円を描いて回避。だがこのスキルは少々見せすぎた。

「そこだぁ！」

「チッ……」

ゲームにおいて性別や体格なんてものは殆ど信頼できない情報だ。全てはステータスパラメータによって決まるのだから、華奢な少女が巨岩を叩き割ることもあるし2メートルある巨漢のステータスが軒並み低い、なんてこともプレイ開始10分くらいならありふれたものだ。

つまり、見てくれは細腕であってもチェーンソーを振り回す膂力が非力である、と期待するのはするだけ無駄、という事だ。

あかしゃを中心点に円周を移動して背後に回り込んだ俺に対して、あかしゃは自分自身を独楽として回転させながらチェーンソーを叩き込んできた……片手で。

「おっも……！」

百足式8-0.5を構えて叩き込まれたチェーンソーの回転刃を受け止める。こちとら神匠製、あっけなくぽっきり折れる事こそないが遠心力と奴自身のSTRによって莫大な運動エネルギーを込めて振り回されたチェーンソーとの激突は、咄嗟に足で百足式8-0.5を蹴るように支えなければそのまま押し込まれていた。

最大の運動エネルギーが籠っていた初撃はなんとか受け止め切れたが、チェーンソーという武器種の恐ろしさは圧倒的な継続的ダメージにこそある。”振る”動きに加えてチェーンソー自体の”回る”動きが百足式8-0.5の耐久値をゴリゴリ削る。だが互いに前へと押し込むことで拮抗を成立させている以上、後ろに退けば相手の武器が前に進んでくる。

「っ！」

「何っ」

なら流すしかない。

百足式8-0.5を縦に構えて横振りのチェーンソーと押し込み合っていた均衡、十字の形にぶつかり合っていた縦側の俺がチェーンソーの下に滑り込むようにして百足式8-0.5を傾ける。

そのまま握り続けていれば指がチェーンソーに切り落とされかねないので、片手で保持しつつ肩に担ぐようにして百足式8-0.5でチェーンソーの刃が走る"上り坂"を作りながら前に飛び込む！

互いに前に進む押し合いが、一転して「登らせる坂」と「登る刃」の関係へと変わる。

ガリガリと百足式8-0.5を削りながら、そして手と肩を支えに坂を作っている構造上、俺の頭ギリギリのところを掠りながらもほとんど空振りに近い形でチェーンソーを振り抜かされたあかしゃの無防備な背中に回り込んだ俺はそのまま百足式8-0.5を振り抜く。

「その服に関してはこっちも詳しいんだ………貴重なメイン防具だからな」

R.I.P.は基本的に破損しない。回復ポーションをぶっかけると溶けるが、基本的に斬っても殴っても突いてもダメージは受けるが服そのものは破壊されない。これだけ書くと「千古不易」なんて使わなくても良いように思えるが……アレはアレで弱点が多い。

「例えば装備中は実はステータスにデバフが入っていること！そして引き継がれる防具のパラメータは防具部分にしか適用されない事！」

つまり、露出した素肌の部分は防具の恩恵を受けられず、なおかつステータスに下降補正が付与された柔肌って事だぜ！！

通常の喪服であれば顔を覆うベールがあるのだが………そのR.I.P.はレアもの(・・・・)らしいじゃないか。

「ゴスロリ衣装だから顔面露出してるよなァ！」

通常のR.I.P.であればどれだけ薄いベールであっても発動時に破壊した装備の性能を引き継ぐために鉄兜並の耐久を発揮するそれがゴシックロリータ(レアパターン)には無い。

故に百足式8-0.5の先端、隠された機能を解放した時には刃を展開する部分があかしゃの顔面……その横っ面にめり込んだのだった。

「ぶぐっ！？ マ、マジでこの人容赦ねぇ………」

「アバターの顔面に個体識別と観賞用以上の価値は無い！」

顔の造形でSTRが増えるのか？増えんだろう。

「ひでぇ！……だが、思った通りだったなツチノコさん……！」

「むっ」

クリーンヒットだったはずだが、あかしゃの動きが止まらない。頬にめり込んだ百足式8-0.5の先端を押しのける勢いで振り返り、ギャルンギャルンと吠え猛るチェーンソーを振り回す。鍔迫り合いはあまり望ましくない、故にバックステップで距離を取る。恐らく装備ではなくプレイヤー自身のVITが高い、セツゲッカのように素肌に対するダメージを軽減する何かしらのアクセサリーやスキルがあるのかもしれない。

とはいえ、結構な勢いでヒットさせた以上はノーダメージではないだろう。にも関わらずあかしゃの表情はどこか勝ち誇っているようにも見えた。

「あんたは多彩な武器を使い分けるし、最速の名前の通り機動力が飛び抜けてる。だが………攻撃スキル(・・・・・)は実はそんなに多くない！ 少なくとも、槍系のスキルは持ってない……違うか？」

「面白い珍説だな」

…………見抜かれた、か。

・チェーンソー（神代）

大木……のように太い敵の手足をぶった切るように武装転用されたもの。

手持ち武器だが戦術機などと同じマナ・ドライブ・エンジンなので外付けのエネルギーユニットが枯渇すると動きが止まる。

とはいえ対人戦であれば余程長期戦に持ち込まれない限りは基本的に問題なし。対モンスター？エネルギーユニットダースで持ってこい！

「柔らかい相手程強いが、硬い相手程弱い」という隠された弱点がある。要するに小ダメの超多段ヒットだからね………